



生涯学習だより

2020/ 9 月号

# ピウカ

発行  
教育委員会

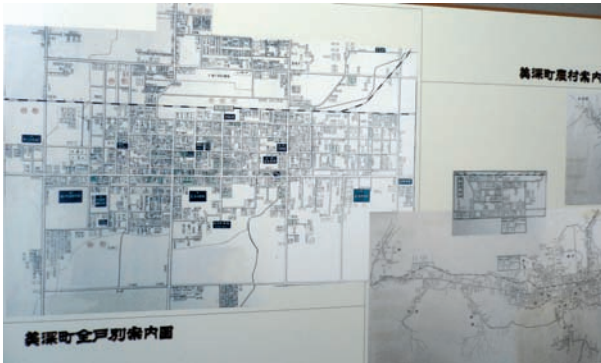
## 文化会館 COM100 郷土資料室

郷土資料室は開拓時代から下名寄村、そして美深の誕生、明治・大正・昭和の生活用品と歴史資料を展示しています。

- 開室時間 午前10時から午後5時まで
- 休館日 12月30日から1月5日まで
- 入場料 無料



松浦武四郎コーナー



地図パネル(昭和40年ごろ)



美幸線と鉄道コーナー

## 美深町史

— 特集 — 歴史をふりかえる  
開拓から昭和20年代の伝染病

新型コロナウイルスは、依然として全国で感染者が増加しています。感染症の一日も早い終息を願いつつ、当時の「伝染病」の歴史を見てみます。

町史によると北海道の伝染病といえば痘瘡、マラリヤ、赤痢が流行して道民を苦しめ、拓殖の進歩を阻害したが、次第に減少を示し、痘瘡に至ってはほとんどその陰を潜めるに至ったのは、種痘の普及によるものであるが、本町は元来伝染病患者の発生が比較的少なかった。その他、結核は記録の上で明瞭ではないが、相当数の患者と死亡者を例年出しており、本町の保健衛生の見地からも揺るがせに出来ず、近年は町内各分院及び名寄保健所の応援を得て全町民のレントゲン検診、B・C・Gの接種による結核の早期発見と初期治療と患者の診療指導に万全を期している。なお、特異なものとして戦時中まで恩根内に水銀鉱山（東洋水銀工業株式会社天塩鉱業所）があり、鉱員の一部に水銀中毒患者が若干見られたが、終戦と共に鉱山が閉鎖されたので、現在はこの中毒患者を見ないと記されており、昭和18年から22年頃の伝染病として、最も発生数が多かったのはジフテリアであり、合計61名の発生と6名の死者を出しているとも記されています。

(参考文献：美深町史 昭和26年刊)

病名	患者数	年次
ジフテリア	19	明治四十二年
	19	明治四十三年
腸チブス	34	明治四十四年
	28	大正元年
マラリヤ	29	大正二年
	21	大正三年
赤痢	17	大正四年
	5	昭和二年
結核	4	昭和三年
	3	昭和四年
その他	22	昭和五年
	21	昭和六年
その他	27	昭和七年
	25	昭和八年

■開拓当時から伝染病患者数の記録（町史から一部抜粋）